



日本酒で乾杯推進会議 「富山大会」開く

越中 万葉の郷に響きわたった「日本酒で乾杯！」の歓声



第3部「万葉朗唱の宴」の幕開け。高橋正樹高岡市長(中央)の発声で関係者一同「日本酒で乾杯！」

日本文化のルネサンスを旗印に活動を続ける「日本酒で乾杯推進会議」の富山大会が10月5日の午後、「～地酒は地方の文化 越中万葉の郷から～」をテーマに富山県高岡市で開催されました(主催＝日本酒で乾杯推進会議富山大会実行委員会／共催＝日本酒造組合中央会／後援＝金沢国税局<北陸三県の地酒を楽しむ会>)。日本最古の歌集『万葉集』と深いえにしで結ばれた越中・富山の空に、「日本酒で乾杯！」の聲が高らかに響き渡った秋の一日を完全レポート！



万葉人も日本酒で乾杯



第1部では、4人の識者がパネルディスカッション



第2部は、おなじみ鈴々舎馬風師匠の一門による落語鑑賞

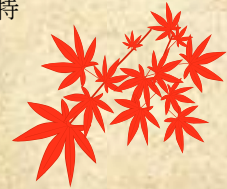
第8回目の地方大会。大伴家持も愛した「越中の地酒で乾杯！」

日本人なら、日本酒で乾杯！－「日本酒で乾杯運動」は、乾杯という行為を通じて日本文化への誇りを取り戻そうという業界総力のキャンペーンです。

運動の中核組織となる日本酒で乾杯推進会議では毎年秋、東京での総会・フォーラム開催と並んで県単位の地方大会を開催しており、地元の県酒造組合との協力により、郷土色豊かな企画で「日本酒で乾杯」の全国普及に取り組んできました。

● 「高岡万葉まつり」とタイアップ

通算 8 回目となる今回の富山大会では、天平時代に越中国司を務めた歌人・大伴家持がこの地で多くの歌を詠んだことにちなみ、万葉の郷・越中という郷土の歴史性、文化性を前面にアピール。高岡市恒例の「高岡万葉まつり」(毎年 10 月に開かれるビッグイベント。3 日間にわたり万葉集全二十巻朗唱の会などが行われる)とタイアップして、第3部の「万葉朗唱の宴」<16:00～20:00>を高岡古城公園本丸広場(「朗唱の会」の会場は同公園内の中ノ島特設水上舞台)で開催したほか、第1部「基調講演&パネルディスカッション」<14:00～15:50>、第2部「落語 鈴々舎馬風一門」<16:00～17:00>(会場はいずれも富山県高岡文化ホール)など盛りだくさんのプログラムで、大伴家持も愛した越中地酒文化の豊かさを発信しました。



石毛直道氏

100 人委員会・石毛代表が開会挨拶

富山大会の開会に当って挨拶した日本酒で乾杯推進会議・100 人委員会(各界著名人による支援団体)の石毛直道代表(国立民族学博物館名誉教授)は、「古来、お神酒上がらぬ神はなし、と言われてきたが、最近の日本人は日本酒、あるいは酒に関わる日本文化を忘れてしまっているのではないかと。日本酒で乾杯し、日本酒を飲むことで、日本の伝統文化を思い起してほしいというのがこの運動の主旨であり、最近各地で日本酒で乾杯条例が制定されるなど、『日本酒で乾杯』は確実に広がりとつづくと、運動の成果を強調しました。



▲ 日本酒で乾杯推進会議富山大会とタイアップした「高岡万葉まつり」。今年は10月4日～6日の開催。

▲ 富山大会のポスター。実行委員会を中心とした告知活動の甲斐あって前売チケットは即完売に。



富山県高岡文化ホール



富山県高岡古城公園本丸広場



第1部 ★ 富山の酒、万葉集との関わりなどをめぐり4氏がパネル討論

● 「頂杯と乾杯」神崎氏が基調講演

第1部では、まず民俗学者の神崎宣武氏が「頂杯と乾杯」と題して基調講演を行ないました。この中で神崎氏は、「頂杯は神様にお供えした神聖なお酒を頂くこと。その心情が希薄になって、明治の中ごろからイギリス海軍の影響で乾杯が日本に広がったものと考えられるが、日本人なら物の初めには、目線のあたりに杯を掲げる頂杯の礼に倣って、日本酒で乾杯しよう」と訴えました。



続いて、神崎氏をコーディネーターに、高岡市万葉歴史館館長の坂本信幸氏、地酒で乾杯富山推進会議会長で(株)インテック最高顧問の中尾哲雄氏、日本酒で乾杯推進会議運営委員長の西村隆治氏の3人が、「万葉集と富山の酒」をテーマにパネルディスカッション。伝統文化や日本酒の力、そして大伴家持と酒などをめぐって、興味深いやり取りを繰り広げました。



神崎氏 「日本酒で乾杯運動は、日本の文化全体の発展をめざしているが、まずは地元の酒、さかな、行事を維持することが日本の力になる。富山の人々は富山の酒や文化をぜひ大切にしてほしい」



中尾氏 「かつての村社会では、人の心をひとつに結び付ける上で、酒が大きな力を持っていた。仲のいい社会、心の豊かな社会を作るには酒、そして伝統文化を大切に、次代に残していくことが何より重要だと思う」



西村氏 「民族酒である日本酒のシェアが10%を切っている日本は異常な国。過度な欧米崇拝で日本人に日本が足りなくなったが、幸い国のクールジャパン戦略も始まって、輸出は増えてきている。これからも頑張りたい」



坂本氏 「万葉集などを見ると、富山は古来酒どころで、大伴家持はたいへん酒飲みだったようだ。若者の酒離れと言われるが、おいしい日本酒を飲めば誰でも好きになる。まず日本酒で乾杯して、酒と親しんでもらうことが大事だ」



第2部 ★ 鈴々舎馬風師匠一門の高座で、江戸情緒の世界に遊ぶ

● 日本のお話芸を豊かに彩る酒の文化

第2部は、グッとくだけで江戸情緒の世界のご案内。落語協会最高顧問を務める鈴々舎馬風師匠と、鈴々舎馬桜さん、柳家小菊さん、柳家いっぽんさんの一門4人が、それぞれお酒にちなんだ得意ネタを披露して会場を和ませました。およそ600人の参加者は、酒の文化が日本のお話芸をいかに彩り豊かなものになっているかに改めて感じ入った様子。



▶ 馬風師匠の演目は、おなじみの「親子酒」。禁酒を約束した父と息子が、ともに禁を破ってへべレケに酔っ払った末にーという日本酒落語の見本のような一席。



▲ 前座は柳家いっぽんさん。酒粕で酔っ払った与太郎、酒を飲んだと見栄を張ったが、「冷やか爛か」と問われて「うーん、焼いて食べた」



▶ 鈴々舎馬桜さんの演目は「試し酒」。ある大家の下男久蔵が五升の酒を飲めるかどうか、その家の主人と賭けをした近江屋の旦那、目の前で見事平らげた久蔵の強さに驚いて、「お前さっき表へ出たのは酔わないまじないをしに行ったんだろう」と尋ねると「いやあ、おら五升なんて酒飲んだことねえだから、表の酒屋で試しに五升飲んできた」



▼ 最後は馬風ワンマンショー。美空ひばりの物まねも飛び出して客席は大爆笑。



◀ 「お酒ひと樽千両しょうとままよ、ぬしの寝酒は絶やしゃせぬ～」柳家小菊さんの三味線弾き語り。粋ですねエ。



第3部 ★「万葉朗唱の宴」三千人が飲歓談のひと時を堪能



午後6時、いよいよ第3部「万葉朗唱の宴」の幕開き。正面ステージで行われたオープニングセレモニーでは、日本酒造組合中央会・篠原会長、石井富山県知事、地酒で乾杯富山推進会議・中尾会長の挨拶に続き、主だった関係者揃って鏡開きを行った後、高岡市の高橋市長の発声で県民大乾杯式を挙行(1頁の写真)。会場を埋めた約3000人の参加者とともに高らかに「日本酒で乾杯！」の杯を掲げました。

会場には富山の地酒をはじめ北陸3県57歳の地酒が勢ぞろい。福光餅つき太鼓、高岡市の獅子舞など盛りだくさんのアトラクションも用意され、秋の夜空の下、参加者は富山特産の山海の珍味などを肴に、夜8時を過ぎるまで清飲歓談のひと時を堪能していました(宴の様子は次頁に)。



▲「万葉朗唱の宴」はCATVやインターネットで県内外、そして世界中継されました。写真は、富山駅前のファッションビルCiC前で、大型スクリーンの画面に合わせ同時乾杯する日本酒ファン(富山の地酒ファン倶楽部HPから転載)。



▲ 日本酒造組合中央会・篠原会長「日本人らしい日本人になるために、日本文化をもう一度見直し、大切にしてください」



▲ 石井富山県知事「ダイナミックな地形の富山県は、水も米も酒も魚おいしい。肴と地酒で極楽のひと時を楽しんでお帰りください」。



▲ 地酒で乾杯富山推進会議・中尾会長「酒は人を仲良くする。今宵は県内の人も県外の人、世代を超えて楽しんでください」



▲ 高橋高岡市長「古の七の賢しき人たちも欲りせしものは酒にしあるらし。ここ高岡から、日本中、世界中に乾杯の声を届けよう」



◀ 富山大会を記念して、地酒で乾杯富山推進会議と北日本新聞社が募集した日本酒川柳の入賞者を表彰。特選の作品は「ほめられて富山の酒をまた送る」



◀ 「万葉集朗唱の宴に誘う会」の会員らが朗唱。「中臣の太祝言(ふとのりごと)言い被へ 贖(あが)う命も誰がために汝(なれ)」(大伴家持、酒を造る歌)

万葉の秋、乾杯の夜



日本酒で乾杯推進会議 富山大会
[2013.10.5 高岡市]



若者も女性も鈴ヶ舎馬風一門も、みんな「日本酒で乾杯！」



▲「最近の若者だって乾杯は日本酒でやってます「だいたい、とりあえずビールなんて、もう古いですよ」(参加者)



▼ 福光もちつき太鼓に合わせて石井知事らが杵を振るう場面も(上)。富山神楽などのアトラクションも参加者を楽しませました。



▲ 富山県酒造組合の山崎会長が「日本酒で乾杯推進会議の地方大会を高岡で開かせてもらったことを関係各位に深く感謝します」とお礼の挨拶を述べて、宴の最後を締めくくりました。



大伴家持も一緒に乾杯

